

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	古濱 裕樹		
授 業 科 目	品質管理		科目区分	関連科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1, 2 年次・前期 (隔年)
授業の主題 目 標	【授業の主題】 品質管理は製品を製造するあらゆる業界で重要視され、実施されていることである。この授業では、家庭用繊維製品の製造と品質に主眼を置き、品質管理の基礎から応用までを講義する。 【到達目標】 繊維製品品質管理士 (TES) の資格取得水準を超える知識を修得する。製品企画、製造・流通における管理、消費者対応など業界の様々な領域で活躍できる能力を獲得する。				
授業の内容 進 め 方	1. 品質管理の基礎 (1) ～品質管理の概要と実施～ 2. 品質管理の基礎 (2) ～品質管理の手法～ 3. 繊維製品の企画・設計による品質 4. 繊維製品の製造による品質 5. 繊維製品の品質要求項目と消費性能 (1) ～一般繊維製品の品質と性能～ 6. 繊維製品の品質要求項目と消費性能 (2) ～機能性、審美性製品の品質と性能～ 7. 繊維製品の品質に関わる人体の生理機能 8. 繊維製品の試験法と評価 (1) ～繊維、糸、布地～ 9. 繊維製品の試験法と評価 (2) ～製品、染色、加工剤～ 10. 品質苦情を解決するための基本 11. 品質苦情を解決するための知識 12. 品質苦情を処理する手順 13. 品質苦情の事例 (1) ～損傷、外観・形態変化～ 14. 品質苦情の事例 (2) ～風合い、光沢、色の変化～ 15. 品質苦情の事例 (3) ～加工の機能性低下、安全・衛生、表示の不適正～				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	『新改訂版 繊維製品の基礎知識』日本衣料管理協会 (2023) 『繊維製品の品質問題究明ガイド』日本衣料管理協会 (2019)				
準備学習の 具体的内容	毎回の授業後に、資料を閲覧して課題に取り組む。課題は次回授業時に採点結果の返却および講評を行う。				
評価の方法 基 準	授業の課題 -毎回実施、全 15 回- (100%)				
履 修 上 の 注 意	Google クラスルームと Meet によるリアルタイム型の遠隔授業となる。毎回、授業開始時刻までにクラスルームトップページから Google Meet に入室すること。Google クラスルームのクラスコード : 6v26oxf				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	片山 康之		
授 業 科 目	ビジュアルデザイン論		科 目 区 分	関連科目	2 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1, 2 年次・前期 (隔年)
授業の主題 目 標	【授業の主題】 倉敷市の離島松島で運営されている松島分校美術館を本科目の教材としながら、現地でのフィールドワークから企画立案、滞在制作などに取り組む。 【到達目標】 様々な実践例からデザイン・芸術文化の社会的異議について認識し、それを自身の具体的な活動へと発展させる。				
授業の内容 進 め 方	1. 講義の概要説明 (大学にて実施) 2. 松島分校美術館視察 3. 「島と表現」①フィールドワーク 4. 「島と表現」②過去の事例, 計画 5. 「島と表現」③中間プレゼンテーション 6. 「制作」①何を表現すべきか考える 7. 「制作」②表現したいことの主題を言葉にする 8. 「制作」③表現したいことに必要な素材を決める 9. 「制作」④各素材に適合した制作方法を考案する 10. 「制作」⑤各テーマに沿った実践・制作 11. 「制作」⑥表現したい主題を確認する 12. 「制作」⑦仕上げ, まとめ 13. 「プレゼンテーション」①発表 14. 「プレゼンテーション」②展示計画 15. 「プレゼンテーション」③展示, ディスカッション 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	参考資料 『コミュニティデザイン—人がつながるしくみをつくる』学芸出版 『まなざしのデザイン』NTT 出版				
準備学習の 具体的内容	松島分校美術館の Web サイトを事前準備として閲覧すること。				
評価の方法 基 準	課題 (100%)				
履 修 上 の 注 意	【場所】本科目は集中講義を予定しており、離島にある松島分校美術館で3日間ほど開講する。なお、台風もしくは風速 10m を超える荒天が予想される場合は渡航を中止し、大学にて島の土を使った陶芸作品の制作を行う。 【費用】往復船賃¥2,500/1往復が必要 (3日間で3往復の場合¥7,500)。 【その他】初回に大学にて実施する「講義の概要説明」において必要な持ち物や島滞在における注意事項を伝えるので必ず出席すること。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	クリストファー・ウォルトン		
授 業 科 目	ビジュアルデザイン演習		科目区分	関連科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	1 年次・後期
授業の主題 目 標	【授業の主題】 イラストレーションでの表現に重点を置く。作品課題のテーマは年々変わります。 【到達目標】 ・独創的で説得力のあるコンセプトを開発する ・創意に富んだ内容とスタイルのイラストレーション作品とする。 ・目的のメッセージや情報を効果的に伝えるイラストを制作する。 ・アナログ、デジタル両技術を調和させる。 ・効果的なプレゼンテーション手法を用いる。				
授業の内容 進 め 方	各プロジェクトの時間的要件や授業の状況に応じて、課題計画を3つのプロジェクトから2つのプロジェクトに変更する可能性がある。 プロジェクト1 1. 科目の目標、課題計画の概説 2. イラストレーション課題作品1の「Background Research：概説・調査」 3. イラストレーション課題作品1の「Creation：制作」 4. イラストレーション課題作品1の「Retouching：修正」 5. イラストレーション課題作品1の「Completion, Presentation：完成、発表」 プロジェクト2 6. イラストレーション課題作品2の「Background Research：概説・調査」 7. イラストレーション課題作品2の「Creation：制作」 8. イラストレーション課題作品2の「Retouching：修正」 9. イラストレーション課題作品2の「Completion, Presentation：完成、発表」 プロジェクト3 10. イラストレーション課題作品3の「Background Research：概説・調査」 11. イラストレーション課題作品3の「Creation：制作」 12. イラストレーション課題作品3の「Retouching：修正」 13. イラストレーション課題作品3の「Completion, Presentation：完成、発表」 14. 課題作品まとめ 15. 最終的プレゼンテーション、全体講評・評価 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	『せかいのひとびと』ピーター・スピアー、1980 『ABCの本』安野光雅、1974 『Timeline』Peter Goes、2015 上記に加えて授業課題に関連参考資料を Google Classroom で投稿する。				
準備学習の 具体的内容	必ず、前回の授業内容を復習して、課題作品の要件に従っていることを確認すること。 授業前に Google Classroom の指示、資料、説明等を参考すること。 提出期限どおりに準備すること。				
評価の方法 基 準	作品制作、提出 (80%) 作品プレゼンテーション、発表 (20%)				
履 修 上 の 注 意	アナログ作品制作のため、色鉛筆セット、アクリル絵の具セット、ブラシセットを持参してください。 デジタルデータの保存をするため、USB メモリ 64GB (以上) を持参してください。 作品発表と自己表現も授業の重要な要素の一つである。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	野村 真司		
授 業 科 目	ドローイングⅠ		科目区分	関連科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	1 年次・前期
授業の主題 目 標	【授業主題】 「ダ・ビンチは、絵画論の中で「絵画は壁のしみからのイマジネーションである」と述べている。基底材としては紙を使用し、各自選んだ描画材でドローイングの様々な平面表現に挑戦する。 【到達目標】 本科基礎デッサン、人体デッサンで、白紙の状態から形態を描き出すトレーニングをしてきたが、ここでは、あらかじめ作ったしみやマチエールから形態を着想し、引き出していくドローイングに慣れる事こと目標にする。 描画表現は、描画用具（筆・ナイフ等）やその用法・タイミングによって異なり、その表現は多岐にわたるが、ここでは、その一端を記しておく。 また、大原美術館作品について、美術史を含め口述していく。				
授業の内容 進 め 方	1. オリエンテーション 2. ポアリングからの表現 3. ドリッピングからの表現 4. デカルコマニーからの表現 5. フロッタージュからの表現 6. スタンピングからの表現 7. ステンシルからの表現 8. 水と油の反発を使った表現 9. 揉み紙による表現 10. たらし込みによる表現 11. 漆喰地を使った表現 12. レジンサンドを使った表現 13. モデリングペーストを使った表現 14. ローラー下地を使った表現 15. 講評 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	画集・画像検索等を通じ、適宜提示していく。参考図書『現代の洋画』マリア書房				
準備学習の 具体的内容	各自、作品の進捗状況に合わせ、当日の課題個所を授業前までにイメージしておく。				
評価の方法 基 準	全課題提出を前提条件として、 作品（60%） 取り組み（40%） の総合評価とする。				
履 修 上 の 注 意	ドローイングⅠおよびⅡを連続的に考えているので、ⅠおよびⅡは通じての受講が望ましい				

学 科	服飾美術専攻		担 当 教 員	野村 真司		
授 業 科 目	ドローイングⅡ			科目区分	関連科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	1 年次・後期	
授業の主題 目 標	【授業主題】 ダ・ビンチは、絵画論の中で「絵画は壁のしみからのイマジネーションである」と述べている。基底材としてはキャンバスを使用し、各自選んだ描画材で様々な平面表現に挑戦する。描画表現としては、コラージュおよび箔貼りまでを認める。 【到達目標】 ここでは、前期ドローイングⅠで習得した技法を複合的、重層的に捉え、ミクストメディアとして複数枚制作を目標にする。					
	1. オリエンテーション（「ドローイング」に関する美術館鑑賞の有用性についても口述する） 2. 制作1 キャンバス地に漆喰地塗り 3. 制作1 ドリッピング、ポアリング等による下地作り 4. 制作1 作った下地をサンディングする 5. 制作1 画面のしみや浮き上がった文様を元に筆、ペンでデッサン 6. 制作1 形態の掻き込みまたは着彩 7. 制作1 着彩 8. 制作2 キャンバス地に漆喰地塗り 9. 制作2 ドリッピング、ポアリング等による下地作り 10. 制作2 作った下地をサンディングする 11. 制作2 画面のしみや浮き上がった文様を元に筆、ペンでデッサン 12. 制作2 形態の掻き込みまたは着彩 13. 制作2 着彩 14. 美術館および画廊での鑑賞 15. 講評 定期試験は実施しない					
実務経験を 活かす内容						
テ キ ス ト 教 材	画集・画像検索等を通じ、適宜提示していく。参考図書『現代の洋画』マリア書房					
準備学習の 具体的内容	各自、作品の進捗状況に合わせ、当日の課題個所を授業前までにイメージしておく。					
評価の方法 基 準	全課題提出を前提条件として、 作品（60%） 取り組み（40%） の総合評価とする。					
履 修 上 の 注	・ドローイングⅠおよびⅡを連続的に考えているので、ⅠおよびⅡは通じての受講が望ましい ・開講中に県内の美術館および画廊での鑑賞を行う。実施時期の確定は、展示内容を確認した後に適宜決定する。（その際、集合は現地集合である。実施日についても、受講者の予定を聞き取りの上決定するが、土日など通常の授業日とは異なる曜日に行う場合もある。）					

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	松内 紀之（実務経験あり）		
授 業 科 目	立体制作論		科目区分	関連科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	2 年次・前期
授業の主題 目 標	【授業の主題】 ディスプレイデザインについて基礎知識と独自の視点を養い、比較・検討・議論を行う。そのためにまず、ディスプレイの成り立ちを把握し、基本的・部分的な制作を通じてディスプレイデザインの基礎知識を身に着ける。具体的には、まず基本的・部分的な作品制作を課題作品とし、表現手法や作品の背景をなす文化的事象を含めた議論を行う。授業終盤では、立体制作物・スピーチ・画像を交えたプレゼンテーションを行う。 【到達目標】 プレゼンテーションは、各課題を通じて獲得した造形的感覚・服飾販売に係るアイデア・作品の背景をなす文化的事象が含まれていること、さらには、以下に挙げた参考図書中の基本的専門用語が運用できることを目標とする。				
授業の内容 進 め 方	1. ディスプレイデザインについて 2. ディスプレイデザインの研究事例解題（解説） 3. ディスプレイデザインの研究事例解題（討議） 4. ディスプレイデザイン実例の検討（解説） 5. ディスプレイデザイン実例の検討（実地調査写真あるいは実例写真の収集） 6. ディスプレイデザイン実例の検討（討議） 7. デジタルカメラの基本確認・撮影演習 8. ディスプレイのグラフィックについて 9. ディスプレイデザインに隣接するデザイン領域 10. プロダクトデザイン概説 1—プロダクトデザインの背景 11. プロダクトデザイン概説 2—社会とプロダクトデザイン 12. プロダクトデザイン概説 3—ビジネスとプロダクトデザイン 13. 制作するまとめ作品に関する発表・討議、作品プレゼンテーション準備 14. 作品プレゼンテーション演習 15. 授業のまとめと試験				
実務経験を 活かす内容	インテリアデザイン事務所での実務経験を生かし、基礎知識と発想力を鍛える。 発想意図を伝達するに必要な表現力（スケッチ・制作・撮影）に係る実践的教育を行う。				
テ キ ス ト 教 材	必要に応じてプリントを配布する。 参考図書；『空間創造発想帖』（六耀社） 参考図書；『VMD ビジュアルテキスト&トピックス』（佐藤昭年） 参考図書；『プロダクトデザイン[改訂版]』				
準備学習の 具体的内容	授業中に完成しなかった課題は次回授業までの宿題として課すことがある。 課題制作のための道具と材料を準備する必要がある。				
評価の方法 基 準	月に2回程度の提出物（20%）、制作姿勢（20%） 試験（10%）、期末提出作品（50%）				
履 修 上 の 注 意					

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	松内 紀之		
授 業 科 目	造形表現論		科目区分	関連科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1,2年次・前期(隔年)
授業の主題 目 標	【授業の主題】 ・過去の本専攻科修了論文あるいは、その他デザイン学系論文を中心に紹介しながら、学術論文作成に係る資料収集方法および、整理と資料のまとめ方について考える。 ・受講者が輪番でデザイン学系論文読解と紹介を行ない、各回のテーマに沿った発表と議論を行なう。 ・受講者が特定のテーマに基づいた調査を行い、その結果を発表する。 【到達目標】 ・多くのデザイン学系研究に触れることにより学術論文に慣れること。 ・独力でオリジナル論文の構成ができること。 ・発表演習と議論を通じて研究発表会における実践的な思考力を身に着けること。				
授業の内容 進 め 方	1. 本授業の概要説明，論文構成の図解・図示方法解説 2. 事例（学術論文その1；基礎デザインに関する論考）紹介 3. 事例（学術論文その2；デザイン思想に関する論考）紹介 4. 受講者による事例（学術論文その3；絵画に関する論考等）紹介と討議 5. 受講者による事例（学術論文その4；デザイン史に関する論考等）紹介と討議 6. 受講者による事例（学術論文その5；生活学に関する論考等）紹介と討議 7. 受講者による事例（学術論文その6；物づくりと地域開発に関する論考等）紹介と討議 8. 受講者による事例（学術論文その7；道具学に関する論考等）紹介と討議 9. 受講者による事例（学術論文その8；祭礼学に関する論考等）紹介と討議 10. 受講者による事例（学術調査その1；道具学と事例収集等）紹介と討議 11. 受講者による事例（学術調査その2；文房具の事例収集等）紹介と討議 12. 受講者による事例（学術調査その3；屋外彫刻の事例収集等）紹介と討議 13. 受講者による事例（学術調査その4；都市空間の事例収集等）紹介と討議 14. 受講者による事例（学術調査その5；祭礼に関する事例収集等）紹介と討議 15. 試験と授業のまとめ ・第15回目授業の「試験」は授業時間の一部（30分程度）を用いた記述式試験である。				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	必要に応じてプリント配布 参考図書；『図解作成の基本』（すばる舎） 参考図書；『見やすい資料のデザイン入門』（インプレス）				
準備学習の 具体的内容	発表担当に際しては、事前に担当教員と打ち合わせの上、発表準備を行う必要がある。				
評価の方法 基 準	発表（40%） 数回の提出レポート（40%） 試験（20%）				
履 修 上 の 注 意	履修者の学修状況によっては内容（事例収集に係るデータ収集方法等）を若干変更する場合がある。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	大原 啓市		
授 業 科 目	情報処理論		科目区分	関連科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1, 2 年次・前期
授業の主題 目 標	【授業の主題】 ・情報倫理について講義する。 ・情報セキュリティについて講義する。 ・AI とブロックチェーン等の新しい技術革新について講義する。 【到達目標】 ・情報倫理の基本的な理解を習得する。 ・情報セキュリティについて理解する。 ・AI とブロックチェーン等の新しい技術革新に対応できる基本能力を身につける。				
授業の内容 進 め 方	1. パソコンのログイン Google Workspace の活用 【情報倫理】オンライン授業での心がけ（録画・スクショ） 2. パソコン基礎知識（CPU・SSD・メモリ・LAN・WiFi） 【情報倫理】スマホのマルウェア・電子署名の確認方法と仕組み 3. レポート作成上の基礎知識（MS-Office, WEB 版 Office, Google アプリ） 【情報倫理】フェイクニュースの社会への影響 4. ネットワーク基礎知識（LAN と WAN・IP アドレス・DNS） 【情報倫理】フェイクニュースの社会への影響 5. 情報セキュリティ（「機密性」、「完全性」、「可用性」） 【情報倫理】情報発信と炎上， コミュニティサイトでの投稿注意 6. ネット情報の活用（LAN と WAN・IP アドレス・名前解決・偽サイト IP アドレス） 【情報倫理】情報発信と炎上， コミュニティサイトでの投稿注意 7. 共通鍵暗号方式・公開鍵暗号方式について 【情報倫理】盗聴・改ざん・なりすまし 8. YouTube ブランドチャンネルの活用 【情報倫理】財産権と人格権， 著作物の扱いについて 9. WEB 制作（Google サイト・WordPress サイト） 【情報倫理】アクセシビリティディスレクシア対応 10. ブロックチェーン・NFT について 【情報倫理】著作権法の改正とネット配信・AI チャットボット・フィッシング， 詐欺行為 11. 生成 AI（ChatGPT, Bard） 【情報倫理】スマホとプライバシー 12. ランサムウェア・ボットについて 【情報倫理】情報倫理ハッシュ値， パスワードクラック攻撃・レインボー攻撃 13. ブロックチェーン・NFT 【情報倫理】ランサムウェア・ボット 14. ハッシュ関数（改ざんを防ぐ方法）・デジタル署名 【情報倫理】ハッシュ値， パスワードクラック攻撃・レインボー攻撃 15. ボット・C&C サーバ・ゾンビ・バックドア， rootkit， キーロガー 【情報倫理】個人情報の管理とプライバシー， アプリ使用の長所と短所 定期試験は実施しない				
テ キ ス ト 教 材	『令和 07 年 IT パスポートの 新 よくわかる教科書 (情報処理技術者試験)(日本語)』 単行本 原山 麻美子(著)；技術評論社				
準備学習の 具体的内容	情報処理に関する書籍・WEB 上の解説について調べておくこと。				
評価の方法 基 準	授業態度 (20%) Classroom 課題 (80%)				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	山根 智恵		
授 業 科 目	国語表現法演習		科目区分	関連科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	演習	開 講 時 期	1,2 年次・前期
授業の主題 目 標	【授業の主題】 話しことば、書きことばの両面から日本語の効果的な表現方法を学ぶことによって、実践力を養う。話しことばの面では、基本的なことがらについて理解を深めるだけでなく、スピーチ力や電話応対力を身に付けることが可能となる。書きことばの面では、小論文・レポート・レジュメ・手紙を書く上で望ましい文章表現について確認し、実作することで、文章表現力の向上が可能となる。 【到達目標】 ・話しことばについては、ディベートも体験することで、コミュニケーション能力を高めるだけでなく、論理的に話す能力を身に付ける。 ・書きことばについては、社会人になった時、現場で対応できる文章力を実作を通して確認する。				
授業の内容 進 め 方	1. シラバス説明, ポートフォリオについての説明, 第1課（日本語の話し方, 振り返り） 2. 第1課（日本語の話し方 本文） 3. 第2課（スピーチをしよう） 4. 自己PR（第1グループ）, 第3課（日本語の表記 振り返り） 5. 自己PR（第2グループ）, 第3課（日本語の表記 本文） 6. 自己PR（第3グループ）, 第4課（文章表現と文章構成 振り返り） 7. 自己PR（第4グループ）, 第4課（文章表現と文章構成 本文） 8. 自己PR（第5グループ）, 第5課（小論文・レポート・レジュメ・論文を書こう 振り返り） 9. 第5課（小論文・レポート・レジュメ・論文を書こう 本文） 10. 第6課（敬語を学ぼう 振り返り 本文） 11. 第6課（敬語を学ぼう 練習問題） 12. 第7課（手紙を書こう 振り返り 本文） 13. 第8課（電話をかけよう 振り返り 本文） 14. 第9課（ディベートをしよう 振り返り 本文） 15. 第9課（ディベートをしよう 実践） 自己評価 他者評価 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	テキスト 『新版 基礎から学ぶ日本語表現法』（山根智恵・久木田恵, 大学教育出版） 参考図書 『敬語再入門』（菊池康人, 講談社学術文庫） 『新しい国語表記ハンドブック第8版』（三省堂編修所編, 三省堂） 『大学生と留学生のための論文ワークブック』（浜田麻里他, くろしお出版）				
準備学習の 具体的内容	毎回授業後に出された課題を, 原則次の授業までに行い, 提出する。				
評価の方法 基 準	1. 授業への取り組み (10%) 2. ポートフォリオ (90%) (1～9 課 各課 10%)				
履 修 上 の 注 意	なし。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	服飾美術学科全教員		
授 業 科 目	生活文化環境論		科目区分	専門科目	4 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	講義	開 講 時 期	1 年次・通年
授 業 の 主 題 目 標	【授業の主題】 生活文化や生活環境を考えることは単なる知識の集積ではなく、人やモノの関係性をしっかり観ることであり、生き方をデザインすることである。 本講義においては各担当教員が、私たちを取り巻く日常を多様な観点から、またその関係性を紐解きながら問題提起し、受講者が新たな価値基準を発見する授業である。 【到達目標】 ・生活環境や文化に対し、多様な観点から理解する力をもつ。 ・生活の中におこる問題点について独自の視点から、自分の意見が言える。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 日本の絵画史料およびその他資料から“モノによる事物の区別・意味づけ”を読み取る (担当：松内) 2. 室内空間から都市空間に及ぶ事物の区別・道具立て (担当：松内) 3. 祭礼空間に見る事物の区別・道具立て (担当：松内) 4. パソコンに関する基礎知識とインターネット情報検索 (担当：大原) 5. Society 5.0 と生成 AI (担当：大原) 6. ブロックチェーンと NFT (担当：大原) 7. 消費者の入れ込み度合である「関与」を理解する (担当：岩崎) 8. 外界から情報・刺激を選択・解釈する消費者の「知覚」を理解する (担当：岩崎) 9. 消費者の「態度」形成に及ぼす要因とその影響を理解する (担当：岩崎) 10. 衣服衛生の立場から、人間と衣服環境の望ましい関係を考える (担当：佐藤) 11. 衣服の機能と快適性・着心地 -肌着、ベビー・キッズアパレル (担当：佐藤) 12. 衣服の機能と快適性・着心地 -UV 対策アパレル, 学校制服 (担当：佐藤) 13. 科学的, 工学的視点から生活文化, 生活環境を考える (担当：道明) 14. ものづくりにおける品質や技術, ブランドについて (担当：道明) 15. ものづくりと環境問題について (担当：道明) 16. カルト映画を通じて、時代や社会を考察する (担当：田中) 17. 1950～60 年代の音楽表現から見る芸術・文化・社会の考察について (担当：田中) 18. 1970 年代の音楽表現から見る芸術・文化・社会の考察について (担当：田中) 19. 海外の芸術・文化活動の例 (担当：趙) 20. 日本の芸術・文化活動の例 (担当：趙) 21. 現代における問題意識について (担当：趙) 22. 日本の文化や環境を視点として、精神を患わずことと社会について考察する (担当：上村) 23. 坂口安吾の日本文化私観について考察する。 (担当：上村) 24. 現在の日本の文化や環境について具体的な事例から考察する。レポート提出 (担当：上村) 25. 衣服の入手方法と服飾への価値観の変化について (担当：乾) 26. 衣生活の振り返り (担当：乾) 27. 衣生活の振り返りにより、衣生活のあり方を考える (担当：乾) 28. ファッション産業とトレンド (担当：武永) 29. ファッションの歴史から見るトレンドとトレンドサイクル (担当：武永) 30. トレンドの分析と取り入れ方 (担当：武永) 各教員の担当順は都合により変更することがある。 定期試験は実施しない。				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	各担当教員が資料を配布する。 参考図書: 松生勝編著『アパレル科学概論』朝倉書店, 坂口安吾『日本文化私観—坂口安吾エッセイ選』(講談社文芸文庫)講談社, 原山麻美子『令和 03 年 IT パスポートの 新 よくわかる教科書』技術評論社				
準備学習の 具体的内容	各担当教員が配付する資料や参考図書などの該当箇所を参照し、学習内容に応じて適宜、予習・復習を行うこと。				
評価の方法 基 準	提出課題(80%) 受講態度(20%)				
履 修 上 の 注 意	学位授与機構に申請する際の「家政学に関する総合的な科目」に相当する。 各教員の担当順は都合により変更することがある。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	宮崎 正宇（実務経験あり）		
授 業 科 目	生活福祉論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	2 年次・後期
授業の主題 目 標	【授業の主題】 社会福祉の意義や法制度について学ぶとともに、生活者の視点から、社会福祉の現状と課題について理解する。 【到達目標】 ・社会福祉の意義について理解できる。 ・社会福祉の法制度について説明できる。 ・社会福祉の現状と課題について理解できる。				
授業の内容 進 め 方	1. 現代社会と社会福祉 2. 社会福祉と関連法 3. 子ども家庭福祉の現状 4. 子ども家庭福祉の課題 5. 社会保障制度の現状 6. 社会保障制度の課題 7. 障がい児・者福祉の現状 8. 障がい児・者福祉の課題 9. 地域福祉の現状 10. 地域福祉の課題 11. 低所得者の福祉の現状 12. 低所得者の福祉の課題 13. ソーシャルワーク 14. 高齢者福祉の現状 15. 高齢者福祉の課題 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容	児童福祉施設での個人的な体験や相談援助の事例を通して、体系的・実践的な相談援助の価値、知識、技術を教授する。				
テ キ ス ト 教 材	直島正樹・原田句哉編著『図解で学ぶ保育 社会福祉（第3版）』萌文書林 2022 年 必要に応じて資料を配布する。				
準備学習の 具体的内容	テキストの該当部分を予習・復習する。 授業の中で、調べる必要がある事柄について調査を求める場合がある。				
評価の方法 基 準	受講態度（10%），発表・レポート課題（60%），コメントシート（30%）				
履 修 上 の 注 意					

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	武永 佳奈		
授 業 科 目	服飾造形実技 I		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	実習	開 講 時 期	1 年次・後期
授業の主題 目 標	【授業の主題】 自由にデザインをしたオリジナルジーンズを制作する。 制作を通じ、ジーンズの構造や縫製方法およびデニムの加工方法を習得するとともに、倉敷や児島の文化について学びを深める。特殊ミシンを使用した縫製工程は倉敷市児島産業振興センターの繊維産業ワークスペースを活用し、より実践的なジーンズ縫製の能力を身につける。 【到達目標】 ・ジーンズの構造や縫製方法, 加工方法を理解している。 ・デザインに合わせたジーンズが縫製できる技術を身につけている。 ・倉敷や児島の文化やそれに伴う技術について深く理解している。				
授業の内容 進 め 方	1. ジーンズの構造・副資材について, デザイン画の作成 2. 前パンツの作図 3. 後ろパンツの作図 4. オリジナルジーンズへの型紙展開 5. 裁断・印つけ 6. ポケットの作成と取り付け 7. 前たての作成 8. 後ろパンツの作成 9. 股縫いと脇縫い 10. ウエストベルトとベルトループ 11. 試着と裾上げ, 加工のための印つけ 12. 特殊ミシンによる縫製 ※学外活動を予定 13. デニム加工 ※学外活動を予定 14. ジーンズの装飾 15. プレゼンテーションと作品撮影 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	適宜配布。 参考書 『文化ファッション体系 服飾造形講座(9)メンズウェア I (体型・シャツ・パンツ)』文化出版局 『文化ファッション体系 服飾造形講座(2) スカート・パンツ』文化出版局 『ジーンズソムリエ資格認定試験公式テキスト』岡山県アパレル工業組合(株) 児島ファッションセンター				
準備学習の 具体的内容	前回の工程までできていない箇所はやっておくこと。 必要な材料, 道具は各自準備してくること。				
評価の方法 基 準	課題作品 (50%) プレゼンテーション (30%) 授業態度 (20%)				
履 修 上 の 注 意	特殊ミシンによる縫製とデニム加工の回は現地への集合で, 学外にて行います。 体調管理に気をつけてご参加下さい。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	乾 眞理子		
授 業 科 目	服飾造形実技Ⅱ		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	実習	開 講 時 期	2年次・前期
授 業 の 主 題 標 目	服飾は時代と共に変遷し、構成もそれにつれて変化しているが、個人にとって大切で、長く着続けたい服とはどのような服であろうか。個々が満足できる服を制作するためには様々な技術と豊富な知識が必要となってくる。 【授業の主題】 過去の衣服史や民族衣装の知識を身につけつつ、より高度な理論・技術・表現力を養う。体型に合わせた衣服製作を通して、より快適なパターンづくり、応用的縫製方法、特殊素材と縫製機器の取り扱いなどを知る。実習課題としてはジャケットもしくはコートを製作する。 【到達目標】 - 裏付きジャケットもしくはコートを設計及び縫製し、作り上げることができる。 - デザインにあった、布・縫製技法を選択できる。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. オリエンテーション ジャケットの歴史と形状について ＜ジャケット・コートの制作＞ 2. 計測・パターン作成（身頃） 3. パターン作成（袖・衿） 4. 裁断および印付け 5. 仮縫い 6. 試着・パターン修正 7. 裏地裁断・接着芯張 8. 本縫い(1) 身頃・ポケット 9. 本縫い(2) 衿作り 10. 本縫い(3) 衿付け 11. 本縫い(4) 袖作り 12. 本縫い(5) 袖付け 13. 本縫い(6) ボタンホール等 14. 仕上げ 15. 着装・課題提出 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	適宜プリントを配布する。 『文化ファッション大系 改定版・服飾造形講座4 ジャケット・ベスト』文化服装学院編 文化出版局 参考図書『(文化出版局 MOOK シリーズ) 誌上・パターン塾 Vol.1.5 ジャケット&コート編』文化出版				
準備学習の 具体的内容	必要な材料は各自準備してくること。				
評価の方法 基 準	提出課題 (60%) レポート (20%) 受講態度 (20%)				
履 修 上 の 注 意	課題提出日を厳守すること。 授業時間外の作業が発生することがある。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	武永 佳奈		
授 業 科 目	服飾造形実技Ⅲ		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	実習	開 講 時 期	2年次・後期
授業の主題 目 標	【授業の主題】 フォーマルウェアの製作を通じ、コンセプトに基づいた独創的なデザインのパターン展開と、製作方法を理解する。フォーマルウェアに適切な形、素材についても知識を深め、デザインに取り入れる方法を習得する。また、製作した作品とコンセプトのプレゼンテーションを行うことにより、説得力のあるデザインを発信できる能力も身につける。 【到達目標】 ・フォーマルウェアの定義や適切な形や素材について理解している。 ・コンセプトに基づいたフォーマルウェアのデザイン・製作を行うことができる。 ・高級素材に適した仕立ての処理を行うことができる技術が身についている。				
授業の内容 進 め 方	1. フォーマルウェアの定義と素材について・コンセプトの設定 2. ムードボードとデザイン画の作成 3. パターン製作(1)身頃・スカート 4. パターン製作(2)袖・衿 5. サンプル製作とパターン修正 6. 裁断（表地・裏地） 7. 接着芯・印つけ 8. 身頃の縫製 9. スカートの縫製 10. ファスナー付け 11. 袖・衿の縫製 12. 裏地の縫製 13. 裏地付け 14. 装飾・仕上げ 15. プレゼンテーションと作品撮影 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	『文化ファッション体系 服飾造形講座(3) ブラウス・ワンピース』文化出版局 『文化ファッション体系 服飾造形講座(6) 服飾造形応用編Ⅰ』文化出版局 参考書 『文化ファッション体系 服飾造形講座(4) ジャケット・ベスト』 『誌上・パターン塾 vol.4 ワンピース編』 その他、適宜配布。				
準備学習の 具体的内容	必要な材料、道具は各自準備してくること。				
評価の方法 基 準	課題作品 (50%) プレゼンテーション (30%) 授業態度 (20%)				
履 修 上 の 注 意	服飾造形実技Ⅰ（1年次・後期）・Ⅱ（2年次・前期）を履修していることが望ましい。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	高橋 敏子		
授 業 科 目	手工芸演習		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	演習	開 講 時 期	1, 2 年次・後期 (隔年)
授業の主題 目 標	【授業の主題】 様々な地域に発展した手工芸の技術を実際に学習し作品を制作する。 【到達目標】 タティングレース、クロシェレース等伝統あるレースの技術を取得し、その背景にある手工芸の文化についての見識を高める。				
授業の内容 進 め 方	1. オリエンテーション 編物の歴史と種類 2. タティングレースの基礎編み ダブルステッチ 3. タティングレースの基礎編み リング編みとブリッジ編み 4. タティングレースの基礎編み 作品の図案 5. タティングレースの応用編み 作品を繋げていく 6. タティングレースの応用編み 作品の仕上げ 提出 7. クロシェレースの基礎編み ①かぎ針の使い方 8. クロシェレースの基礎編み ②細編み, 長編み 9. クロシェレースの基礎編み ③三角形, 四角形, 円の編み方 10. クロシェレースの応用編み ①作品の編み図の見方 11. クロシェレースの応用編み ②作品の仕上げ, 提出 12. クラシックレース (ヘアピンレース, ブリュージュレースなどの基礎知識) 13. クラシックレース (バテンレース, ボビンレースなどの基礎知識) 14. クラシックレース (クンストレースの基礎知識) 15. まとめ 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	文部科学省後援日本編物検定協会 手引き書 レース2級 適宜プリント配布。				
準備学習の 具体的内容	授業で学んだ技法を復習し, マスターしておく。				
評価の方法 基 準	課題の提出物の評価(50%) 意欲・応用力・研究的態度(50%)				
履 修 上 の 注 意	短期大学において「手工芸」の科目を履修した方が望ましい。 配布したプリントは毎回授業に持参すること。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	乾 眞理子		
授 業 科 目	被服心理学		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1, 2 年次・前期 (隔年)
授業の主題 目 標	【授業の主題】 人の被服行動を心理学の立場から分析する。被服行動をととして、人間というもの、自分というものを見つめなおす。 【到達目標】 ・ 被服の社会・心理的機能を理解する。 ・ 被服における流行について説明ができる。 ・ これからの被服行動について、考えを示すことができる。				
授業の内容 進 め 方	1. 授業の進め方の説明・被服の着衣行動 2. 人間の着衣動機 3. 被服による装飾・整容・変身行動 4. 被服の購買・消費行動 5. 被服と流行行動 6. 被服に対する知覚と感情 7. 化粧行動 8. 身体と着衣行動 9. 被服による性の学習と性役割の演出 10. 人間の発達と着衣行動 11. 被服コミュニケーション 12. グループディスカッションに向けて テーマ設定 13. グループディスカッション 14. プレゼンテーション 15. まとめ 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	『まとう(新装版): 被服行動の心理学(人間行動学講座)』, 中島義明・神山進, 朝倉書店 その他, 適宜資料を配布する。				
準備学習の 具体的内容	普段から, 被服に関する新しい情報に興味を傾け, 問題点等をまとめておいてください。				
評価の方法 基 準	各回の課題 (20%) 授業への意欲・参加度 (20%) 発表と発表内容のレポート (60%)				
履 修 上 の 注 意	受講者の人数や受講生の関心によって, 順番を入れ替えたり, 内容の一部を変更したりする場合がある。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	佐藤 希代子		
授 業 科 目	被服衛生学		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1, 2 年次・後期 (隔年)
授業の主題 目 標	【授業の主題】 快適な被服をデザインするためには、ヒトと物との関わりを、総合的に把握することが重要である。 この授業では、ヒトの生体メカニズムを学習した上で、ヒトと物との関わりを評価する方法を学ぶことを目的とする。 【到達目標】 ヒトの生理反応について理解を深めることを目標とする。				
授業の内容 進 め 方	1. 被服と環境, 被服の目的および機能 2. 生体の構造 3. 被服設計における人間因子(1) 形態的因子 4. 被服設計における人間因子(2) 体型分類 5. 被服設計における人間因子(3) 運動機構的因子 6. 被服設計における人間因子(4) 着心地の評価 7. 人体計測法 8. 生理学的測定法 9. 動作分析法 10. 心理学的測定法 11. 自律神経系, 生体リズム 12. 体温, 皮膚温, 平均皮膚温 13. 発汗, 唾液 14. 心拍, 血圧, 血流 15. まとめ・筆記試験				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	テキスト：日本家政学会被服衛生部会編『アパレルと健康』井上書院 参考図書：斉藤秀子・呑山委佐子編著『快適服の時代』おうふう 田村照子編著『衣の科学シリーズ 衣環境の科学』建帛社				
準備学習の 具体的内容	テキストの読了				
評価の方法 基 準	受講態度 (20%), 筆記試験 (80%) により評価する。				
履 修 上 の 注 意	「被服生理学実験」受講希望者は、この授業を必ず履修すること。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	佐藤 希代子		
授 業 科 目	被服生理学実験		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	実験	開 講 時 期	1 年次・後期
授業の主題 目 標	【授業の主題】 快適な被服の評価をするために、被服等を着用した時の温冷感、圧迫感、肌触りなどの心理量、生理量に関する測定や評価を行い、実験計画、評価手法、解析手法について学習し、生体反応について理解を深める。 【到達目標】 基本的な測定法や電気生理学を用いた測定法を用い、快適な被服の評価、快適環境の評価についての実験を集中的に行う。実験テーマについて議論し、実験計画、評価方法、解析方法を考え、学生間相互に被験者となり実験を行う。受講者全員が1つのテーマで実験を行い、各人にレポートの提出を求める。これらを通して、生体についての理解を深めることを目標とする。				
授業の内容 進 め 方	1. 衣服に関する問題点について考え、レポート提出。 2. 提出されたレポートを基に議論し、実験テーマを決定する。 3. 実験内容、評価方法、測定項目の検討。 4. 実験内容、評価方法、測定項目の検討および準備。 5. 実験1（同テーマで被験者を数人確保し、5回程度の実験を実施） 6. 実験1の解析と反省。実験手順・改善点の確認。 7. 実験2（実験1のテーマで実験1とは異なる被験者にてのデータ収集） 8. 実験3（実験1のテーマで実験1・2とは異なる被験者にてのデータ収集） 9. 実験4（実験1のテーマで実験1～3とは異なる被験者にてのデータ収集） 10. 実験5（実験1のテーマで実験1～4とは異なる被験者にてのデータ収集） 11. データの解析 12. データの解析、反省、実験レポートの作成 13. 実験レポートの作成 14. レポート発表・ディスカッション 15. まとめ 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	佐藤希代子著『被服生理学実験プリント』を授業時に配布する。 参考図書：日本家政学会被服衛生部会編『アパレルと健康』井上書院 鈴木浩明著『快適さを測る』日本出版サービス				
準備学習の 具体的内容	婦人体温計を各自準備し、8月頃より基礎体温をつけること。 （女性被験者は黄体期に実験。この黄体期を把握するための基礎体温測定である。）				
評価の方法 基 準	受講態度（20%）レポート提出（50%）発表（30%）				
履 修 上 の 注 意	「被服生理学」「被服衛生学」を受講のこと。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	道明 伸幸		
授 業 科 目	アパレル材料科学実験		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	実験	開 講 時 期	1, 2 年次・後期 (隔年)
授業の主題 目 標	【授業の主題】 アパレル材料（繊維、糸、布およびその他高分子材料）の科学についての基礎的な理解を深めるため、繊維・アパレル業界で一般的な繊維試験や、やや高度な方法についても学び、実験を通してそれらの知識を身につける。またアパレルの生産現場における品質に対する考え方についても学ぶ。 【到達目標】 アパレル業界で活躍するための知識とその背景、原理を理解し、実際に問題に接したときに十分に対応できるよう準備する。				
授業の内容 進 め 方	1. ガイダンス 2. 備中地区繊維産地（主に児島）における品質評価に対する実態調査 3. 実験 1 ナイロン 66 の界面縮合重合 4. 実験 2 高分子のレオロジー測定—繊維のクリープ測定 5. 実験 3 繊維の引張測定①—糸の伸張特性 6. 実験 4 繊維の引張測定②—糸の節強さ、引掛け強さ 7. 実験 5 布の引張測定—布の伸張特性と異方性 8. 実験 6 布の引裂き測定—ペンジュラム法とシングルタング法 9. 実験 7 布の織密度測定①—画像処理（2 次元フーリエ変換）による測定 10. 実験 8 布の織密度測定②—光学回折による測定 11. 実験 9 布のプリーツ性評価—モンサント法 12. 実験 10 快適機能性素材の評価—JIS 法とボーケン法 13. 実験計画検討会—実験テーマと実験手法の検討 14. 実験 11 アパレル材料に関する測定、評価 15. データ整理、レポート作成 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	島崎恒蔵 編著『衣服材料の科学[第 3 版]』 実験書（開始時に配布する。）				
準備学習の 具体的内容	事前に実験書、参考書等をよく読んで内容を把握しておく。				
評価の方法 基 準	レポート (80%) 受講態度 (20%)				
履 修 上 の 注 意	実験用白衣の着用				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	大橋 和正		
授 業 科 目	地域活性化論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1,2 年次・前期（隔年）
授業の主題 目 標	【授業の主題】 地域の活性化をものづくりの観点から考える講義である。地域の特産物を材料として活用し、製品化・ブランド化して付加価値をつけて販売するというサプライチェーンに基づく方法論は、大きな地域産業力をもたらすことになる。そのためには、まず地域を知り、ものづくりのための人の熟練化も考慮しながら、合理的なものづくりの方法論を追究して、価値ある製品を産み出すことである。本講義では、ものづくり産業からみた地域の活性化に焦点をあて、具体例をあげながら、地域活性化の手順・手法、さらには産み出される製品に関する価値・評価法について学ぶ。 【到達目標】 ・地域活性化の意義、考え方、手法をものづくりを通して理解すること ・産み出される製品とそのつくり方について、価値・評価法を身に付けること				
授業の内容 進 め 方	【授業の内容】 1. イントロダクション 講義概要、地域の特性とサプライチェーンに基づくものづくりとは 2. 地域を支えるものづくり産業のいろいろ 地域の特徴となる材料選びとサプライチェーンに基づくものづくり 3. 備前地域における伝統的ものづくり産業とその活性化 備前焼、名刀おさふね、張子の虎など地域に密着したものづくり 4. 美作地域における伝統的ものづくり産業とその活性化 木製おもちゃ、竹細工など地域に密着したものづくり 5. 備中地域における伝統的ものづくり産業とその活性化 紙すき、い草民芸品など地域に密着したものづくり 6. 岡山県の地場産業の変遷と特徴的ものづくり 干拓地の特徴を生かした産業の発達（繊維、農業機械） 7. 倉敷市における地場産業の特徴 旧倉敷地区、玉島地区、水島地区、児島地区の産業とその活性化 8. 水島地区における現代的ものづくり産業の特徴 コンビナート開発とオートメーション化 9. 児島地区における繊維産業の特徴 ジーンズ、学生服の生産を主力にした繊維産業の発達 10. 制服縫製工程の生産性と作業の多能工化（生産ネットワーク） 学生服生産を例に、生産ネットワークの構成と作業内容 11. 縫製作業工程と生産計画の方法論 繊維製品の種類と数量に基づく生産計画の立て方 12. 縫製作業工程と生産計画の効率化手法 評価基準を満たす適切な生産計画の立て方 13. 縫製作業工程の管理手法 作業者の作業内容と作業工程の管理手法 14. 縫製作業工程の管理と評価 作業者のスキルに合った作業内容と作業工程の評価 15. 講義のまとめ、試験 全体の講義内容と地域活性化についての考察、そして試験の実施 定期試験は実施する。 【授業の進め方】 ・プリントを配布する。 ・講義が主体の科目であるが、適宜、演習も加えて、理解を深める。				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	【教科書】 必要に応じてプリントを配布する。 【参考書】 大橋和正、『暮らしに役立つ技術と工学の基礎知識』、共立出版、2022、ISBN 978-4-320-07175-9				
準備学習の 具体的内容	予習・復習を欠かさず、学習に臨むこと				
評価の方法 基 準	試験（80%）、授業内での演習（20%）				
履 修 上 の 注 意	特になし				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	岩崎 之勇		
授 業 科 目	ブランド論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	講義	開 講 時 期	1 年次・後期
授業の主題 目 標	【授業の主題】 マーケティングにおけるブランドの役割，ブランドに関する基礎および事例研究について学ぶ。 【到達目標】 ・ブランドマーケティングについて全体像を理解できている。 ・ブランドマーケティングで使われる基本的用語を理解できている。				
授業の内容 進 め 方	1. 授業概要・ガイダンス，ブランドとは 2. ブランドマーケティングの考え方 3. ブランドメンテナンスとブランド再構築 4. 顧客視点によるブランド価値評価 5. 新ブランドの開発 6. ブランド名の開発パターン 7. 企業ブランドとは 8. ブランド体系とカテゴリー 9. ブランドコミュニケーション 10. ブランド広告のフレーム 11. ブランド調査方法 12. ブランドの潜在価値 13. ブランドプロジェクトの全体設計 14. ブランドマーケティングの留意点 15. まとめ・試験				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	【参考文献】 株式会社インプレス R&D POD 出版サービス，2020，「ブランディングの教科書」羽田康祐・K_bird 博報堂ブランドコンサルティング，2012，『図解でわかるブランドマーケティング』日本能率協会マネジメントセンター ブレインゲイト，2002，『図解でわかるブランディング』日本能率協会マネジメントセンター				
準備学習の 具体的内容	各授業で配ったプリントを復習する。 授業の中で，特に調べてくる事項についての調査を求める場合がある。				
評価の方法 基 準	試験（80%）と中間レポート（20%）により評価する。				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	岩崎 之勇		
授 業 科 目	マーケティング・コミュニケーション論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	講義	開 講 時 期	1, 2 年次・前期 (隔年)
授業の主題 目 標	【授業の主題】 マーケティング・コミュニケーション（広告活動を含む。）に関する基本的な知識，手法，さらには理論を理解する。 【到達目標】 ・マーケティング・コミュニケーションについて全体像を理解する。 ・マーケティング・コミュニケーションで使われる基本的用語を理解する。				
授業の内容 進 め 方	1. 授業概要・ガイダンス，マーケティングとマーケティング・コミュニケーション 2. マーケティング・コミュニケーションの考え方 3. 広告/マーケティング・コミュニケーション諸活動の定義と機能 4. 広告/マーケティング・コミュニケーションのビジネス 5. コミュニケーション・メディア 6. 広告/マーケティング・コミュニケーション規制 7. BtoB 広告/マーケティング・コミュニケーション 8. グローバル広告/マーケティング・コミュニケーション 9. ソーシャル・マーケティングと広告/マーケティング・コミュニケーション 10. セールス・プロモーション 11. PR とパブリシティ戦略 12. クチコミ 13. ダイレクト・マーケティング 14. インストア・マーチャンダイジングとマーケティング・コミュニケーション 15. まとめ・試験				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	【参考文献】 石崎徹 他，2019，『わかりやすいマーケティング・コミュニケーションと広告(第2版)』八千代出版				
準備学習の 具体的内容	各授業で配ったプリントを復習する。 授業の中で，特に調べてくる事項についての調査を求める場合がある。				
評価の方法 基 準	試験（80%）と中間レポート（20%）により評価する。				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	岩崎 之勇		
授 業 科 目	アパレル経営論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	講義	開 講 時 期	1,2 年次・前期 (隔年)
授業の主題 目 標	【授業の主題】 経営学の視点からアパレル経営に関する基礎研究、及び消費者行動に関する基礎的事例研究について学ぶ。 【到達目標】 ・アパレル産業の経営に関する全体像が分かる。 ・アパレル産業の経営に関する基本的な取り組みを理解する。				
授業の内容 進 め 方	1. 授業概要・ガイダンス アパレル経営とは 2. 会社の経営とは (1) アパレル企業の構造 3. 会社の経営とは (2) 日本のアパレル企業の成立 4. 企業論 (1) アパレル企業の歴史 5. 企業論 (2) アパレルビジネスの流れ 6. 企業形態論・企業統治論 (1) アパレル企画・開発形態 7. 企業形態論・企業統治論 (2) アパレル産業の流通形態 8. 経営戦略論 (1) アパレル産業の戦略とは 9. 経営戦略論 (2) アパレル産業の戦略方法 10. 経営管理論 アパレル産業の経営管理 11. 企業間関係論 アパレル産業のサプライチェーンマネジメント 12. 生産管理論 アパレル産業の生産管理と QCD 13. 組織デザイン アパレル産業の組織構造 14. 組織行動論 アパレル産業に人的資源管理 15. まとめ・試験 これまでの授業内容を振り返りと試験の実施				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	【参考文献】 『アパレルの終焉と再生』朝日新書 『図解即戦力 アパレル業界のしくみとビジネスがこれ1冊でしっかりわかる教科書』技術評論社				
準備学習の 具体的内容	各授業で配ったプリントを復習する。 授業の中で、特に調べてくる事項についての調査を求める場合がある。				
評価の方法 基 準	試験(80%)と中間レポート(20%)により評価する。				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	趙 採沃		
授 業 科 目	デザインマネジメント		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	講義	開 講 時 期	1, 2 年次・後期 (隔年)
授業の主題 目 標	【授業の主題】 ・現代におけるアート・デザインやマネジメントの環境やあり方を理解。 ・自らの観点からデザイン展の企画・制作・発信の一連の全過程を理解する。 ・実践的な方法論によるアート・デザインマネジメントをめざす。 【到達目標】 ・次世代におけるアート・デザインのあり方について自らの見解をもつこと。 ・各自におけるコミュニケーション方法や, マネジメント力を身に付ける。 ・地域を基にデザインマネジメント力を発揮する能力をもつこと。				
授業の内容 進 め 方	1. オリエンテーション 2. アート・デザイン 3. デザイナーとは？アーティストとは？ 4. マネジメントとは？ 5. マネジメント実践①身の回り 6. ①身の回り：資料収集・計画書の作成 7. 試案①身の回りについての計画案プレゼンテーション 8. 試案①実行・マネジメントについてのプレゼンテーション 9. マネジメント実践②環境 10. ②環境：資料収集・計画書の作成 11. ②環境について計画案のプレゼンテーション 12. ③総合マネジメント実践について 13. 記録・報告・作成 14. ③総合的マネジメント実践についてプレゼンテーション 15. まとめ 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	『生き延びるためのデザイン』（ヴィクター・パペネック，壮光舎，1974）ほか。 必要に応じて資料配布および作品・著書紹介。				
準備学習の 具体的内容	授業の際に告知する。 事前デザインプランニングなどをプレゼンすることがある。				
評価の方法 基 準	課題（70%） プレゼンなどの授業態度（30%）				
履 修 上 の 注 意	出席率の扱いについては学生便覧に記載のとおり。 基本的な道具が必要な場合、各自で準備・持参。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	趙 採沃		
授 業 科 目	アート演習 I		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	1 年次・前期
授業の主題 目 標	【授業の主題】 ・21 世紀，現代における美術環境や関連する問題意識に対する理解する。 ・各自におけるアートコンセプトや，体験的な造形要素を理解する。 【到達目標】 ・環境・メディアの観点から主体的にアート作品を制作・展示する。 ・視覚芸術における 2 次元および 3 次元の形態と空間との関りを理解すること。 ・空間と 3 次元の立体造形との関係から自らのアートの制作及び，造形技法を発掘すること。				
授業の内容 進 め 方	1. オリエンテーション 2. 環境とアートについて 3. 環境とアートについて 発想 4. ラフスケッチ画・制作案の発案 5. 制作案の検討と素材集め 6. 環境とアートについて 作品の制作 7. 環境とアートについて 作品の仕上げ 8. 作品のプレゼンテーション 9. メディアとアートについて 現代のメディアアートの概要 10. メディアとアートについて 発想 11. ラフスケッチ画の完成・制作案の作成 12. 素材集め 13. メディアとアートについて 作品の制作 14. メディアとアートについて 作品の仕上げ 15. 作品の展示とまとめ 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	『美術からアートへ』（三田村峻右著，鳳山社，1993） 必要に応じて資料配布および作品・著書紹介。				
準備学習の 具体的内容	必要に応じて授業の際に告知。 作品や作家研究などに関する事前調査などがある。				
評価の方法 基 準	作品（70%） プレゼンテーション（20%） 授業態度（10%）				
履 修 上 の 注 意	クロッキー帳など，基本的な描画道具が必要なため，各自で準備し，毎回持参。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	趙 採沃		
授 業 科 目	アート演習Ⅱ		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	1 年次・前期
授業の主題 目 標	【授業の主題】 ・身体をめぐる諸造形的言説を考察する。 ・様々な身体の機能や、感覚的要素についての思考力・感受性を高める。 ・身体をモチーフにしたアートの制作及びそれぞれの制作技法の発掘・発展させる。 【到達目標】 ・身体を造形要素とし、アートや造形が遂行できること。 ・身体を媒体にした作品プレゼンテーション力・デジタルの記録と編集および技術力の習得と発展させること。 ・身体とアートに関する独自な見解をもつこと。				
授業の内容 進 め 方	1. オリエンテーション 2. 20 世紀以降、現代美術における身体とアートについて 3. 身体を媒体にしたアートについて (パフォーマンス、イベント、ハプニングなど) 4. 作品の発想：ディスカッション 5. 作品の企画：スケッチ画・制作案作成 6. 作品の制作①素材集め 7. 作品の制作②表現力と技術の発掘 8. 作品の制作③試し制作 9. 作品の制作④本制作 10. 作品のプレゼンテーション（実演） 11. 作品のプレゼンテーション（記録） 12. 作品のプレゼンテーション（1 回目編集） 13. 作品のプレゼンテーション（2 回目編集） 14. 作品の発表 15. まとめ 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	『冷たいパフォーマンス』（清水徹＋山口勝弘，朝日出版社，1983） 必要に応じて資料配布および作品・著書紹介。				
準備学習の 具体的内容	必要に応じて授業の際に告知。 映像撮影などの事前課題がある。				
評価の方法 基 準	作品（50%） プレゼンテーション（40%） 授業態度（10%）				
履 修 上 の 注 意	クロッキー帳など、基本的な描画道具が必要なため、各自で準備し、持参すること。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	田中 孝明（実務経験あり）		
授 業 科 目	テキスタイルデザイン論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1, 2 年次・後期（隔年）
授業の主題 目 標	【授業の主題】 テキスタイルデザインの基礎となる理論と古代から現在に至るテキスタイルデザインの記録及び作品を基に歴史的発展と表現形態を時代別・民族別に追及し、デザインの意義を考察しながら授業を行う。 【到達目標】 ・学生は基本的なテキスタイルの素材、製法を学び、近代から現代までのテキスタイルの動向を考察する。 ・学生は現在のテキスタイルデザインの立場からファッション及びインテリア市場を調査研究し、動向を考察する。				
授業の内容 進 め 方	1. テキスタイルデザインとは 2. テキスタイル素材（麻・綿） 3. テキスタイル素材（綿・ウール） 4. テキスタイル素材（化学繊維） 5. テキスタイルにおける製造工程（敷物） 6. テキスタイルにおける製造工程（壁面装飾） 7. 歴史の発展・時代別の考察（アジア） 8. 歴史の発展・時代別の考察（日本） 9. 歴史の発展・紋様の考察 10. テキスタイルデザインの展開 11. テキスタイルデザイン研究（織物） 12. テキスタイルデザイン研究（染め） 13. テキスタイルデザイン研究（編み） 14. テキスタイルデザイン研究（独自表現） 15. テキスタイルデザイン研究（加工） 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容	企業における商品開発の実務経験を活かし、デザイン企画、素材、デザイン作成に関しての内容を講義します。				
テ キ ス ト 教 材	『テキスタイルエンジニアリング [1] 原料から糸へ』を参考にする。資料を配布する。				
準備学習の 具体的内容	課題において、授業前の資料収集などを求める場合がある。				
評価の方法 基 準	期日指定のレポート（80%）、授業への取り組み（20%）				
履 修 上 の 注 意	提出物は期日を厳守すること。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	田中 孝明（実務経験あり）		
授 業 科 目	テキスタイルデザイン演習Ⅰ		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	1 年次・前期
授業の主題 目 標	【授業の主題】 デザインに関する情報収集及びデザイン計画の展開を学び、各自が自由にテーマを選択し、ファッション及びインテリアに関連した独創的なデザインとして発展、展開する。デザイン表現方法の拡大のため多様なスキルやテクニックを駆使し体験する。各課題に対してテーマに基づいたデザイン計画を立て、プレゼンテーション資料作成を通じながらデザインプロセスを修学し、表現する。 【到達目標】 ・学生はデザイン企画を考えるためのプロセスを修学する。 ・学生はテーマに基づいたデザイン計画を遂行する。				
授業の内容 進 め 方	各自テーマ設定を行い、ディレクションの企画を計画し、インテリアにおけるデザイン企画制作とウェアブルにおけるデザイン企画制作を行う。 授業進行手順 1. ガイダンス、企画課題説明 2. ディレクションのための調査・序章 3. ディレクションのための調査・分析 4. ディレクションのための調査・展開 5. ディレクション企画計画・序章 6. ディレクション企画計画・展開 7. ディレクション企画課題制作・序章 8. ディレクション企画課題制作・展開 9. ディレクション企画課題制作・編集 10. ディレクション企画課題講評会 11. デザイン企画調査 12. デザイン企画課題制作・序章 13. デザイン企画課題制作・分析 14. デザイン企画課題制作・展開 15. デザイン企画課題講評会 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容	企業における商品開発の実務経験を活かし、デザイン企画、色彩計画、デザイン作成に関しての実践的教育を行います。				
テ キ ス ト 教 材	『インテリアトレンドビジョン』を参考にする。資料を配布する。				
準備学習の 具体的内容	各課題において、授業前の資料収集、デザインなどを求める場合がある。				
評価の方法 基 準	期日指定の作品（100%）				
履 修 上 の 注 意	演習による作品制作が多く、提出物は毎回期日を厳守すること。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	田中 孝明（実務経験あり）		
授 業 科 目	テキスタイルデザイン演習Ⅱ		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	演習	開 講 時 期	2年次・前期
授業の主題 目 標	【授業の主題】 ものづくりのプロセスを学び、作品課題を遂行するための資料収集、試作などを繰り返し体験する。各自自由にテーマを選択し、デザイン及びアートの視点で作品を完成させることを目標とする。 表現方法の拡大のため多様な方法を駆使し目的に沿って完成させる。 【到達目標】 ・学生はテキスタイルに関わるデザイン、アートの展開事例を知る。 ・学生はテーマに基づいたデザイン及びアート計画を遂行する。				
授業の内容 進 め 方	多様なデザイン表現のスキルやテクニックを拡大し各自で開発する。プランニングを通じて、サンプル制作及び企画制作を行う。 授業進行手順 1. ガイダンス、作品課題説明 2. 素材をテーマにしたデザイン企画課題制作（ディスカッション） 3. 素材をテーマにしたデザイン企画課題制作（資料収集） 4. 素材をテーマにしたデザイン企画課題制作（資料調査） 5. 素材をテーマにしたデザイン企画課題制作（展開） 6. 素材をテーマにしたデザイン企画課題制作（アイデア出し） 7. 素材をテーマにしたデザイン企画課題制作（試作） 8. 素材をテーマにしたデザイン企画課題制作（再構成） 9. 素材をテーマにしたデザイン企画課題制作（編集） 10. 感覚をテーマとしたデザイン企画課題講評会 11. 感覚をテーマとしたデザイン課題制作（ディスカッション） 12. 感覚をテーマとしたデザイン課題制作（資料収集） 13. 感覚をテーマとしたデザイン課題制作（アイデア出し） 14. 感覚をテーマとしたデザイン課題制作（試作） 15. 感覚をテーマとしたデザイン課題制作講評会 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容	企業における商品開発の実務経験を活かし、デザイン企画、色彩計画、デザイン作成に関しての実践的教育を行います。				
テ キ ス ト 教 材	『DESIGNING DESIGN』を参考にする。資料を配布する。				
準備学習の 具体的内容	各課題において、授業前の資料収集、デザインなどを求める場合がある。				
評価の方法 基 準	期日指定の作品（100%）				
履 修 上 の 注 意	演習による作品制作が多く、提出物は毎回期日を厳守すること。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	田中 孝明		
授 業 科 目	工芸染織		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	1 年次・後期
授 業 の 主 題 目 標	【授業の主題】 手織機を使用しながら、基本的な織組織から布をつくることを修学する。テキスタイル表現としてのテクスチュアと造形表現を修得し、自らデザインした作品制作を遂行する。 【到達目標】 ・学生は布の構造及び織り表現及び技法を修学することができる。 ・学生は織りによる布の造形表現及びデザイン展開を遂行する。				
授 業 の 内 容 進 め 方	授業進行手順 1. ガイダンス，課題説明 2. テーマ課題制作（アイデア出し） 3. テーマ課題制作（織物構想） 4. テーマ課題制作（織物設計） 5. テーマ課題制作（糸染め準備） 6. テーマ課題制作（糸染め説明） 7. テーマ課題制作（糸染め） 8. テーマ課題制作（経糸準備） 9. テーマ課題制作（整経作業） 10. テーマ課題制作（手織機への経糸セッティング） 11. テーマ課題制作（織り表現説明） 12. テーマ課題制作（織り作業） 13. テーマ課題制作（織り作業・展開） 14. テーマ課題制作（仕上げ） 15. テーマ課題制作講評会 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	『ウィーヴィング・ノート』を参考にする。資料を配布する。				
準備学習の 具体的内容	課題において、授業前の資料収集、デザインなどを求める場合がある。				
評価の方法 基 準	期日指定の作品（100%）				
履 修 上 の 注 意	演習による作品制作が多く、提出物は毎回期日を厳守すること。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	田中 孝明（実務経験あり）		
授 業 科 目	染色実習		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	実習	開 講 時 期	1 年次・後期
授業の主題 目 標	【授業の主題】 布による造形作品の制作として染色の応用段階に入り多様なスキルやテクニックを体得する。シルクスクリーンプリント、CG プリント、絞り染、型染、植物染料実験等の実習を行う。 また、応用作品では各自が自由にテーマを設定し創造的な作品制作を制作する。多様な染色表現、布の加工表現などを修学し、創造的な発想を育てることを目標とする。 【到達目標】 ・学生はテキスタイルに関わる表現、技法を体験し、知ることができる。 ・学生はテキスタイル表現によるものづくりの展開を遂行する。				
授業の内容 進 め 方	授業進行手順 1. ガイダンス，課題説明 2. 型染による作品制作（括り作業） 3. 型染による作品制作（絞り染め） 4. 型染による作品制作（型紙制作） 5. 型染による作品制作（糊置き） 6. 型染による作品制作（染色） 7. 型染による作品制作（定着） 8. 布加工による作品制作（オパール加工） 9. 布加工による作品制作（染色） 10. 植物染料実験 11. 応用作品制作（ディスカッション） 12. 応用作品制作（アイデア出し） 13. 応用作品制作（展開） 14. 応用作品制作（試作） 15. 講評会 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容	企業における商品開発の実務経験を活かし、応用作品制作におけるものづくりのデザイン企画，色彩計画，デザイン作成に関しての実践的教育を行います。				
テ キ ス ト 教 材	『絞り染め大全』、『染色の基礎知識 合成染料の技法』を参考にする。資料を配布する。				
準備学習の 具体的内容	各課題において、授業前の資料収集，デザインなどを求める場合がある。				
評価の方法 基 準	期日指定の作品（100%）				
履 修 上 の 注 意	演習による作品制作が多く、提出物は毎回期日を厳守すること。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	上村 晴彦（実務経験あり）		
授 業 科 目	ライフプロダクト論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1, 2 年次・前期（隔年）
授業の主題 目 標	【授業の主題】 身近にあるものごとを観察し、デザインの理解を深める。知覚や運動からアプローチして、デザインに埋め込まれているものを考察する。また、児島地域の場所や風景を中心に、具体的な事例を考察する。生活の中にあるもののデザインと理論との関わりについて知ると同時に冊子にまとめる。 【到達目標】 ・観察する力とそれを表現する力を身につける。 ・知覚という視点からデザインを考え・制作することができる。				
授業の内容 進 め 方	1. オリエンテーション 身近にあるデザインされたものごとについて 2. アフォーダンスについて 概要 3. アフォーダンスについて 知覚について 4. アフォーダンスについて デザインの視点から 5. アフォーダンスについて 風景という視点から 6. 環境と身体からデザインされている 1 毎日の行為からの考察 7. 環境と身体からデザインされている 2 道具的なものについての考察 8. 環境と身体からデザインされている 3 地面、林と森、建物を考察する。 9. 環境と身体からデザインされている 4 街を考察する。 10. 環境と身体からデザインされている 5 使われながらデザインされ続けることについて 11. 遠景と近景を観察する 12. 関係性をデザインすることについての考察 13. 発表、ディスカッション デザインについて 14. 発表、ディスカッション 児島の風景について 15. 「児島の風景」（冊子）制作 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容	デザインの実務経験を活かし、デザインに関わる理論と実践による教育を行う。				
テ キ ス ト 教 材	参考資料 『アフォーダンス入門』佐々木正人（講談社学術文庫） 『レイアウトの法則』佐々木正人（春秋社）				
準備学習の 具体的内容	課題に必要な調査と収集を行うこと。				
評価の方法 基 準	プレゼンテーション（60%） 課題（40%）				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	上村 晴彦（実務経験あり）		
授 業 科 目	ライフプロダクト演習Ⅰ		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	演習	開 講 時 期	1 年次・後期
授業の主題 目 標	【授業の主題】 現在の社会・経済の仕組み，コミュニティやコミュニケーションについて考察し，身近なものを観察することを通して，デザインや表現を試みる。個々で調査・研究・制作を行い，展示形式による発表を行う（学内外を問わない）。 【到達目標】 ・生活を形成している環境や製品について考察し，問題を提起することができる。 ・発想・伝達・構成する力を軸に，独自性と社会性を伴ったデザインやプロジェクトを提案できる。				
授業の内容 進 め 方	1. オリエンテーション 自分たちの生活環境について 2. 調査・研究1 周囲を観察する。 3. 調査・研究2 身近なものの収集 4. 調査・研究3 収集したものの分類・編集 5. 中間発表（調査・研究のプレゼンテーション） 6. 試作1 収集したものの落とし込み 7. 試作2 パターンの提示・これまでのまとめ 8. 中間発表（試作のプレゼンテーション） 9. 制作1 作品の考えについて 10. 制作2 広報に関するもの 11. 制作3 デザイン，制作 12. 設営，展示 13. 講評，搬出 14. ポートフォリオの作成 15. ポートフォリオのプレゼンテーション 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容	デザインと展示の実務経験を活かし，デザイン企画とデザインに関する実践的教育を行う。				
テ キ ス ト 教 材	参考資料 『「その日暮らし」の人類学』小川さやか（光文社新書） 『うしろめたさの人類学』松村圭一郎（ミシマ社）				
準備学習の 具体的内容	課題に必要な調査と収集を行うこと。				
評価の方法 基 準	課題（80%） プレゼンテーション（20%）				
履 修 上 の 注 意	展示場所の視察や搬入搬出など，別途交通費などが必要になる場合がある。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	上村 晴彦（実務経験あり）		
授 業 科 目	ライフプロダクト演習Ⅱ		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	2年次・前期
授業の主題 目 標	【授業の主題】 身の回りにあるものから企画する力と展覧会の実践を通して、創造とコミュニケーションの能力を鍛える。受講者全員の話し合いを通して、共通のテーマを設定する。個々がそのテーマへのアプローチを試みる。研究と試作を経て、制作を行う。学外での展示形式の発表を予定している。 【到達目標】 ・身の回りを観察し資料収集する能力を高め、テーマに基づいたデザイン・制作をすることができる。 ・グループワークによるコミュニケーションを前提とした、企画を立案し実践することができる。				
授業の内容 進 め 方	1. オリエンテーション テーマに関する観察力と視点について 2. テーマに関する情報の収集 3. テーマに関する話し合いとテーマ設定 4. 展示に関する役割決めとスケジュールの作成 5. 展示場所についての情報収集と考察 6. 展示場所の現地視察 7. 研究・試作1 制作に関する収集 8. 研究・試作2 分類と編集 9. 研究・試作3 これまでのまとめ 10. 中間発表 プレゼンテーション 11. 広報の構想とデザイン 12. 制作1 考えの構築 13. 制作2 全体の構成 14. 搬入, 展示 15. 講評, 搬出 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容	デザインと展示の実務経験を活かし、デザイン企画とデザインに関する実践的教育を行う。				
テ キ ス ト 教 材	参考資料 『ちやぶ台』vol.1～3（ミシマ社） 『世界をきちんとあじわうための本』ホモ・サピエンス道具研究会（ELVIS PRESS）				
準備学習の 具体的内容	課題に必要な調査と収集を行うこと。				
評価の方法 基 準	課題（80%） プレゼンテーション（20%）				
履 修 上 の 注 意	展示場所の視察や搬入搬出など、別途交通費などが必要になる場合がある。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	松内 紀之		
授 業 科 目	空間演出演習		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	2 年次・前期
授業の主題 目 標	【授業の主題】 - 与えられた制限時間内でショウウィンドウのデザインと模型制作演習を行う。なお、必要スキルについては、適宜トレーニングカリキュラムを組み入れ、習得させる。 - 収集された情報を元に討議を行い、討議から生まれた発想からアイデアスケッチを行う。 - 数々のアイデアを集約した模型を計画・制作し、制作物・スピーチ・画像を交えたプレゼンテーションを行う。 【到達目標】 - 授業成果をまとめるプレゼンテーションは、各課題を通じて獲得した造形的感覚および、服飾販売に係るアイデアが含まれていることを目標とする。 - 成果は、デザイン学会学生セッション等への出品を目標とする。				
授業の内容 進 め 方	1. 本授業の概要説明・ショウウィンドウに関する討議 2. ショウウィンドウについて（講義） 3. ショウウィンドウの実例資料収集 4. 採集画像について発表・討議 5. ショウウィンドウ模型（1）制作にむけたアイデアスケッチと討議 6. ショウウィンドウ模型（1）制作 7. 制作したショウウィンドウ模型の撮影、作品のまとめ 8. 提案したショウウィンドウについて発表・討議 9. ショウウィンドウ模型（2）制作にむけたアイデアスケッチと討議 10. ショウウィンドウ模型（2）制作 11. 制作したショウウィンドウ模型の撮影、作品のまとめ 12. 提案したショウウィンドウについて発表・討議 13. 作品プレゼンテーション準備 14. 作品プレゼンテーション演習 15. 授業のまとめと試験				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	必要に応じてプリントを配布する。 参考図書；『空間デザイナー』（六耀社）				
準備学習の 具体的内容	授業中に完成しなかった課題は次回授業までの宿題として課すことがある。 課題制作のための道具と材料を準備する必要がある。				
評価の方法 基 準	月に2回程度の提出作品（20%），制作姿勢（20%） 試験（10%），期末提出作品（50%）				
履 修 上 の 注 意					

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	服飾美術学科全教員		
授 業 科 目	産業研修Ⅰ		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	実習	開 講 時 期	1 年次・前期（集中）
授 業 の 主 題 目 標	【授業の主題】 この科目は、学外での学びを通じて学習意欲を高めることや就職活動に備え、早い時期から産業界との接点を持ち、実務的な体験を得ることが目的である。 【到達目標】 以下の実行能力が身についている。 ・大学で学んでいる知識・理論・技術が実社会でどのように生きているか、あるいは、どのような相違があるかを考えること ・自分自身の将来について考えること ・自分自身の適性を確認できるようになること ・学びと働くことの意義を考えること ・働くことの楽しさや厳しさを体感すること ・就職活動に対する選択肢を広げ自分自身のキャリアデザインを描くこと				
授 業 の 内 容 進 め 方	授業スケジュールや内容は、企業、行政機関、まちづくり団体などの都合に準じる。なお、夏休みを含めた前期終了までに以下の流れで授業を展開する。 1. 大学生の就職活動におけるインターンシップの意義（担当：情報・地域・ビジネスコース教員） 就職活動、採用マッチング、インターンシップとは何か、企業と学生にとってのメリット 2. 労働市場の動向（担当：情報・地域・ビジネスコース教員） 新卒とは、労働市場の特殊性、労働市場の需要と供給 3. インターンシップの準備を始めよう（担当：情報・地域・ビジネスコース教員） 自己分析、業界研究、企業研究、就職支援サイトの活用と問題点、ハローワークの活用 ※インターンシップ先は、大学から紹介する受入先および就活支援サイト等から紹介する受入先を各自で選択することができます。 4. インターンシップの実施（担当：服飾美術学科全教員） 企業、行政機関、まちづくり団体でインターンシップへ参加 ※内容、スケジュール、場所は企業等によって異なる 5. レポート作成（担当：服飾美術学科全教員） 自分自身のキャリア形成にどのように役立ったか整理しながらまとめる、お礼状を作成する 定期試験は実施しない				
実務経験を活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	【参考書】『「仕事映画」に学ぶキャリアデザイン』梅崎 修 他 有斐閣 【参考書】『「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』小川慎一 他 有斐閣 【参考書】『ジェンダーで学ぶ生活経済論[第3版]』伊藤 純 他 ミネルヴァ書房 ※参考書は必ずしも購入する必要はない。その他の参考文献は必要に応じて適宜紹介する。				
準備学習の具体的内容	事前予習を十分行った上でインターンシップに臨むこと。 事前準備としてインターンシップ先の企業等に関する予備調査をすること。				
評価の方法基準	受講態度（50%）、インターンシップ日誌とレポート（50%）				
履 修 上 の 意 注	下記の注意点をよく読み、理解した上で履修してください。 ① インターンシップ先の企業等の多大なる協力によって成り立っていることに留意すること。 ② インターンシップ先の企業等ごとに、就業規則等に準じて実習を行うため、特別の理由なく遅刻や欠勤をしないこと。また、安全守則を厳守すること。 ③ 社会人としての規律と自覚を持って実習に参加すること。 ④ 採用につながる可能性があることを意識すること。 ⑤ 原則として2024年8月末日までにインターンシップを終えること。 ⑥ 大学が準備している履修先企業（20社程度）の数を上回る受講希望があった場合は、履修先を自ら探索・確保することを求める場合がある。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	服飾美術学科全教員		
授 業 科 目	産業研修Ⅱ		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	実習	開 講 時 期	1 年次・後期（集中）
授業の主題 目 標	【授業の主題】 この科目は、日ごろ学んでいる知識や技術を用いて、多角的な視点から企業を観察する眼を養うことや、将来自分が希望する就職先企業についての探索、研究など、進路選択の基盤とすることが目的である。 【到達目標】 以下の実行能力が身についている。 ・大学で学んでいる知識・理論・技術が実社会でどのように生きているか、あるいは、どのような相違があるかを考えること ・自分自身の将来について考えること ・自分自身の適性を確認できるようになること ・学びと働くことの意義を考えること ・働くことの楽しさや厳しさを体感すること ・就職活動に対する選択肢を広げ自分自身のキャリアデザインを描くこと ・自分の将来設計、適正に沿った就職先企業の絞り込みを行い得ること				
授業の内容 進 め 方	授業スケジュールや内容は、企業、行政機関、まちづくり団体などの都合に準じる。なお、冬休みを含めた後期終了までに以下の流れで授業を展開する。 1. 大学生の就職活動におけるインターンシップの意義（担当：情報・地域・ビジネスコース教員） 就職活動、採用マッチング、インターンシップとは何か、企業と学生にとってのメリット 2. 労働市場の動向（担当：情報・地域・ビジネスコース教員） 新卒とは、労働市場の特殊性、労働市場の需要と供給 3. インターンシップの準備を始めよう（担当：情報・地域・ビジネスコース教員） 自己分析、業界研究、企業探索、企業研究、就職支援サイトの活用と問題点、ハローワークの活用 ※インターンシップ先は、大学から紹介する受入先および就活支援サイト等から紹介する受入先を各自で選択することができます。 4. インターンシップの実施（担当：服飾美術学科全教員） 企業、行政機関、まちづくり団体でインターンシップへ参加 ※内容、スケジュール、場所は企業等によって異なる 5. レポート作成（担当：服飾美術学科全教員） 自分自身のキャリア形成にどのように役立ったか整理しながらまとめる、お礼状を作成する 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	【参考書】『「仕事映画」に学ぶキャリアデザイン』梅崎 修 他 有斐閣 【参考書】『「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』小川慎一 他 有斐閣 【参考書】『ジェンダーで学ぶ生活経済論[第3版]』伊藤 純 他 ミネルヴァ書房 ※参考書は必ずしも購入する必要はない。その他の参考文献は必要に応じて適宜紹介する。				
準備学習の 具体的内容	事前予習を十分行った上でインターンシップに臨むこと。 事前準備としてインターンシップ先の企業等に関する予備調査をすること。				
評価の方法 基 準	受講態度（50%）、インターンシップ日誌とレポート（50%）				
履 修 上 の 注 意	下記の注意点をよく読み、理解した上で履修してください。 ① インターンシップ先の企業等の多大なる協力によって成り立っていることに留意すること。 ② インターンシップ先の企業等ごとに、就業規則等に準じて実習を行うため、特別の理由なく遅刻や欠勤をしないこと。また、安全守則を厳守すること。 ③ 社会人としての規律と自覚を持って実習に参加すること。 ④ 採用につながる可能性があることを意識すること。 ⑤ 原則として2025年1月末日までにインターンシップを終えること。 ⑥ 大学が準備している履修先企業（20社程度）の数を上回る受講希望があった場合は、履修先を自ら探索・確保することを求める場合がある。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	服飾美術学科全教員		
授 業 科 目	特別研究Ⅰ		科目区分	専門科目	4 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	1 年次・通年
授 業 の 主 題 目 標	【授業の主題】 講義・演習・実習・実験等で学んだ知識・技術を応用して、各自のテーマについて研究および課題制作に取り組み、その過程を通じて研究能力または技能を養うと共に、発表の仕方や論文の書き方等について学ぶ。 【到達目標】 この過程を通じて独創性・積極性を体得させ、将来必要となる幅広い知識と柔軟な応用力を修得している。特にこの特別研究Ⅰでは、研究テーマの設定、先行研究・制作の調査に重点を置く。				
授 業 の 内 容 進 め 方	本科目は学修総まとめ科目である特別研究Ⅱの準備段階として授業を進める。 履修者が指導教員による指導の下、自らの研究構想を具体的な研究課題の設定につなげ、先行研究をまとめた上で、枠組みとなる理論や研究方法を探り、「研究計画書」を仕上げる。 1～2. オリエンテーション（学位授与制度、履修方法）（担当：専攻科担任） 3～9. 学修・探求の成果論文のテーマ（案）の学修・探求（担当：ゼミ担当教員） 10～11. 学修・探求の成果論文の内容（計画）・過程（案）の作成（担当：ゼミ担当教員） 12～13. 学修・探求の成果論文のテーマの着想（案）の作成（担当：ゼミ担当教員） 14～15. 学修・探求の成果論文の目的（案）、手段・方法（案）の作成（担当：ゼミ担当教員） 16～19. 学修・探求の成果論文中間発表会の資料作成（担当：ゼミ担当教員） 20～21. 学修・探求の成果論文中間発表会（担当：服飾美術学科全教員） 22～23. 学修・探求の成果論文のテーマ（案）の修正（担当：ゼミ担当教員） 24～25. 学修・探求の成果論文の内容（計画）・過程（案）の修正（担当：ゼミ担当教員） 26～27. 学修・探求の成果論文のテーマ（仮）の着想の修正（担当：ゼミ担当教員） 28～29. 学修・探求の成果論文の目的（案）、手段・方法（案）の修正（担当：ゼミ担当教員） 30. まとめ 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	各ゼミにおいて、演習内容に即して適宜配布する。				
準備学習の 具体的内容	演習授業の進行状況により、修了論文作成のための論文検索調査など、各ゼミにおいて準備学習についての指示をする。				
評価の方法 基 準	演習における学修過程や研究成果をもとに指導教員（服飾美術学科教員）が評価を行う。				
履 修 上 の 注 意	ゼミ担当教員の他の授業科目をできるだけ受講することが望ましい。 ゼミ配属については、希望調査をもとに人数調整を行う。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	服飾美術学科全教員		
授 業 科 目	特別研究Ⅱ		科目区分	専門科目	4 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	2 年次・通年
授業の主題 目 標	【授業の主題】 講義・演習・実習・実験等で学んだ知識・技術を応用して、各自のテーマについて研究および課題制作に取り組み、その過程を通じて研究能力または技能を養うと共に、発表の仕方や論文の書き方等について学ぶ。 【到達目標】 この過程を通じて独創性・積極性を体得させ、将来必要となる幅広い知識と柔軟な応用力を修得している。特にこの特別研究Ⅱでは、修了論文の完成を目指す。				
授業の内容 進 め 方	本科目は学修総まとめ科目としての意義を有する。 特別研究Ⅰで立案した「研究計画書」にもとづき、履修者が指導教員によるさらなる指導の下で、必要な研究課題の再考や修正を加えながら、フィールドでの質的・量的調査や実証実験、文献探索、模型やオブジェ制作等（以下、「調査等」という。）を進め、独自の研究結果を得て、分析・考察を加えた後、修了論文にまとめる。 1～12. フィールドでの調査等の実施計画（ゼミ担当教員） 調査等の方法や調査等の倫理など（ゼミ担当教員） 調査等の計画に沿った研究の準備・実施（ゼミ担当教員） 履修計画発表（服飾美術学科全教員） 学修総まとめ科目履修計画書の作成（ゼミ担当教員） 13～16. 調査等の結果の分析結果の読み取り方、まとめ方等（ゼミ担当教員） 17～18. 学修成果発表会発表要旨・プレゼンテーション作成（ゼミ担当教員） 19～20. 学修成果発表会（服飾美術学科全教員） 21～26. 学修・探求の成果論文の修正（ゼミ担当教員） 27～30. 学修総まとめ科目 成果の要旨作成（ゼミ担当教員） 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	各ゼミにおいて、演習内容に即して適宜配布する。				
準備学習の 具体的内容	演習授業の進行状況により、修了論文作成のための論文検索調査など、各ゼミにおいて準備学習についての指示をする。				
評価の方法 基 準	授業や研究活動への主体的な取り組み状況 修了論文 学修成果発表会・修了論文報告 学修総まとめ科目成績基準表、を基に判断する。				
履 修 上 の 注 意	発表会の準備、運営は専攻科生の協力のもとで行う。 修了論文の提出期限（提出先：学生部）は、原則として、2 年次の1 月中旬（別途日時を指定）とする。 ゼミ担当教員の他の授業科目をできるだけ受講することが望ましい。				